
六本木アートナイト 2025

外国語対応企画

English Guided Tour: A Sensory Journey through Time

英語ガイドツアー: 感覚で旅する六本木の時層

報告書



六本木アートナイト実行委員会



1. 本事業の概要

〈企画タイトル〉

English Guided Tour: A Sensory Journey through Time

英語ガイドツアー：感覚で旅する六本木の時層

〈実施内容〉

六本木アートナイト2025の主要な作品を巡る英語ガイドツアーを実施。本ツアーは、来場者が多様な視点から作品や六本木の街について対話できる機会を提供し、作品鑑賞の深化および地域への理解促進を目指すものとした。特に、2025年度の「RAN Focus」のフォーカス国が韓国であることから、対話型鑑賞を通じて韓国の歴史や文化に関連する情報も取り入れ、多角的な視点からアートと固有の文化へのアプローチを図った。

〈実施会場〉 六本木アートナイト2025 各所

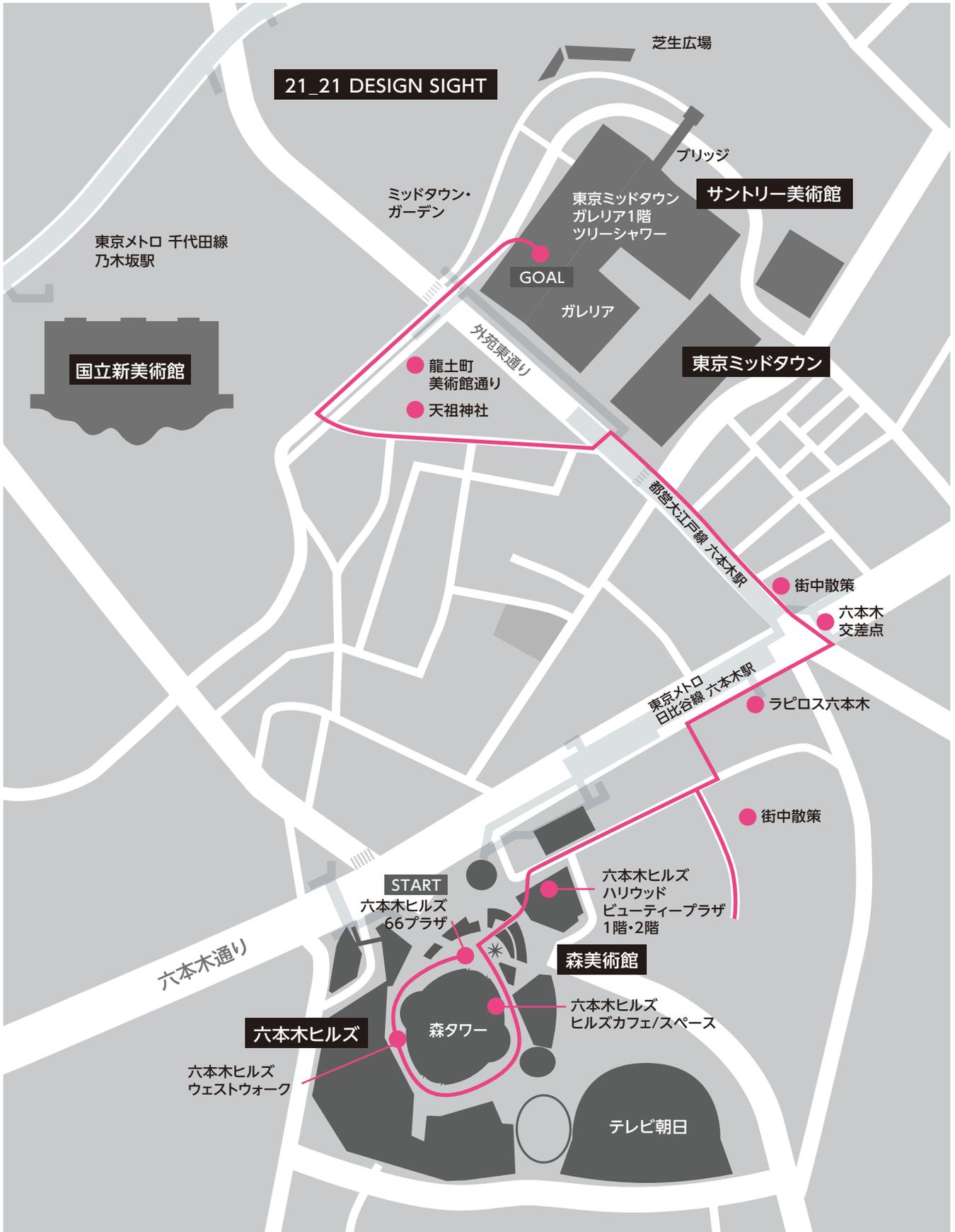
〈開催期間および参加人数〉	予約 人数	参加者 人数	当日 参加者	キャンセル 人数
ツアー①：2025年9月26日(金)17:00～18:30	15名	15名	2名	2名
ツアー②：2025年9月27日(土)19:00～20:30	16名	16名	2名	2名
ツアー③：2025年9月28日(日)16:00～17:30	15名	15名	2名	2名
合計	46名	46名	6名	6名

〈事業の目的〉

- ・ 芸術文化を活用し、多文化共生社会の実現に向けた在留外国人の地域参画を促す。
- ・ アートを通じて街への新しい視点をもつことを促し、街の魅力を伝える機会を創出する。
- ・ 東京のアートシーンやクリエイティブな活動を紹介し、これらの活動に興味を促す。
- ・ 訪日観光客が日本の歴史や文化に触れ、理解を深める機会を提供する。
- ・ 街の中にある文化や歴史を発見することで、地域への関心を喚起する。
- ・ アートを通じて多様性と包括性を体験し、差別や偏見のない社会への理解を促進する。
- ・ 海外からの来場者にとって必要な翻訳などのアクセシビリティについて検討する。

2. プログラム内容詳細

ツアールートマップ



地点

参加者への共有内容の概要

六本木ヒルズ《ママン》

- ・ 集合、受付
 - ・ ファシリテーター(田中・ジョン・直人)紹介
 - ・ イントロダクション(ツアーの趣旨、ルートの確認、六本木ヒルズ地点の概要)
 - ・ 注意事項等の確認
-

六本木ヒルズ 66プラザ

- シャオ・シュアン・タン&メーガン・タン
《Take a walk through the meadow with me》
-

六本木ヒルズ ウェストウォーク 2階

- リン・ジエウエン／ラバイ・イヨン
《赤い恐竜》《緑の恐竜》
 - 小野海《Prism-Aureola》
 - ・ 六本木ヒルズアリーナを眺めながら韓国文化の「パリパリ」文化 [スピードを重視する文化]を紹介
-

六本木ヒルズ
ヒルズカフェ/スペース

- 川原隆邦《量子の共鳴》
-

六本木ヒルズ
ハリウッドビューティプラザ
1階・2階

- アリ・バユアジ「Weaving the Ocean(海を織る)」プロジェクトより
9月27日(土)はアーティスト本人より作品紹介
-

街中散策

- ・ 武家屋敷の通り、長耀寺、日本文化への影響
 - ・ 菩提寺など武家文化との関係性
-

ラピロス六本木
六本木交差点

- 奥山太貴《横断のための目印》《現在地 feat.六本木アートナイト》
-

街中散策

- ・ パブリックアート:本郷新「奏でる乙女」から日本の戦後復興について
 - ・ 六本木エリアの街の成り立ち
(テレビ局開局、クリエイターが多く集まる街となった背景)
-

龍土町美術館通り
天祖神社

- ジン・ヨンソブ《五方色の木のお魚縁台》
 - ・ 韓国の「五方色」文化の紹介
 - フォン・チェン・ツォン《Sailing Castle: Roppongi》
 - ・ 六本木エリアの神社と信仰の系譜
-

東京ミッドタウン
ガレリア1階 ツリーシャワー

- 小林万里子《世界の心臓》
 - ・ 参加者と作品や内容を振り返り、アンケート回収、解散
-

●六本木の街の事前リサーチ及びツアーのポイント

- ・ ツアー冒頭で「アートを通じて、都市と自分たちの歴史と対話する」というテーマを明確に提示、環境問題やコミュニティとの繋がりといった、参加者の出身地に関わらず共感しやすいテーマを持つ作品を多く取り入れた。参加者が自らの経験と結びつけながら考え、ツアーの最後に自然な形で感想や意見を交換できるような流れを構築した。
- ・ 作品の鑑賞にあたっては、意図的に空白（話さない時間）をつくり、鑑賞体験として感じられる時間を長く設定した。
- ・ 外国語ツアーという性質上、日本に訪れることがはじめてという訪日観光客でも気軽に参加ができることを目指したが、例年作品を見る時間をより取って欲しいという意見が寄せられることから、鑑賞の時間が限られていることを先に伝えたくて、実際には以前より多くの時間を取ることにした。
- ・ 今年の六本木アートナイトの「RAN Focus」のフォーカス国である韓国をツアーのテーマに反映、韓国人アーティストの作品を巡り、その背景にある文化（例：「五方色」）や歴史を紹介することで、アートを通じて多文化理解を深める、より奥行きのある鑑賞体験を創出した。
- ・ 好評だった歴史解説を継続しつつ、ツアータイトル「感覚で旅する六本木の時層」に合わせて内容を深化させ、江戸時代の武家屋敷跡地、寺社が傾斜地に立地していることを実際に歩くことで体感し、また戦後復興の象徴[パブリックアート：本郷新「奏でる乙女」]などを巡りながら、現在の風景と過去の出来事を重ね合わせる解説を行った。参加者が単に知識を得るだけでなく、その場に流れる「時間層」を知識よりも体感として理解できるよう促した。
- ・ 集合場所付近では参加者が歩くと光や音楽が反応する作品(シャオ・シュアン・タン&メーガン・タン)、後半では実際に座ることができるベンチ型の作品(ジン・ヨンソブ)をルートに組み込み、参加者が単なる「鑑賞者」ではなく、街とアートの一部となる「当事者」としての意識を促し、より能動的な参加となるよう心がけた。
- ・ インドネシアの海洋プラスチック問題をテーマにした作品(アリ・バユアジ)など、国際的な社会課題に取り組むアートを積極的に紹介し、その普遍的なテーマが「アジア」「日本」「東京」「六本木」という場所で展示される意味を問いかけることで、参加者が自身の文化的背景や日常と接続しながら、多角的にアートや都市を捉える視点を提供した。

●記録写真





〈運営メンバーからの所感〉

○良かった点

- ・ ツアーの経路が公道を含むため、事前にスタッフでルート確認を実施し、混雑や車両通行のリスクを考慮した運営を行った。安全面に対する準備は万全であったといえる。
- ・ 六本木アートナイトの展示作品だけでなく、普段歩いている時には見逃してしまう六本木の見所の解説もあることで、その背景となる六本木の歴史も伝えることができた。
- ・ 作品を鑑賞中に偶然アーティストの方と遭遇し、本人から直接作品についての説明が聞ける場面もあり、ライブ感があった。また、ツアーだからこそ、その瞬間をたくさんの人と共有できた。
- ・ 初めて日本を訪れた外国人に加え、長期滞在中の参加者も多く見られた。参加者の発言や関心の傾向から、美術や文化に対する理解・関心の高い層が多かったことが伺えた。
- ・ 文献調査と現地でのリサーチを組み合わせ構成したツアーは、「インターネット上では得られない知識や体感」を提供する内容となった。各回とも、導入したマイクシステムにより参加者自身が発言・質問できる環境を整備し、より能動的な参加が促された。
- ・ 展示時間外であっても、ルート上に展示会場を含める構成とすることで、後日参加者が再訪・鑑賞できるよう配慮した。これにより、ツアー後の回遊性や作品への関心喚起にもつながった。
- ・ マイク機器に一部不具合が発生したが、全員が同仕様の機器を使用していたため、予備への交換で即時対応が可能であった。2023年度に寄せられた機材トラブルへの指摘は、2025年度は見られなかった。

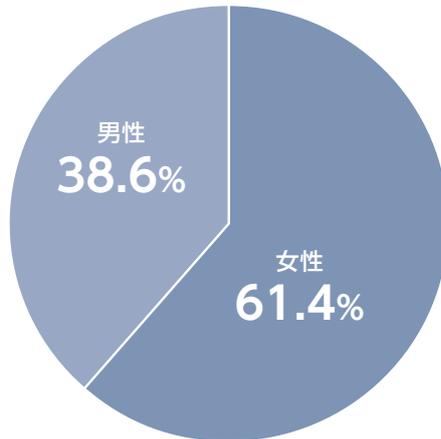
○改善すべき点

- ・ 各作品の前で、解説の後の自由鑑賞時間のタイムコントロールが難しいと感じた(参加者によってはじっくりと鑑賞したい人がいるため)。
- ・ 作品鑑賞を主目的とする参加者が多いことを想定し、作品解説や紹介を多く織り込んだが、内容の充実を図る中で、一部では解説時間が十分に確保できなかった。
- ・ 休憩時間の設定や、パフォーマンス等の紹介とのバランス調整が課題となった。限られた時間内で全ての要素を紹介することは難しく、参加者の関心や鑑賞スタイルの多様性に応じた構成や進行の工夫が求められた。
- ・ 2024年度に好評だった「受付時の対話の時間」については、マイクテストや参加者到着時間の関係で実施が難しく、ツアー序盤はファシリテーター中心の一方的な進行となった。事前申込時に収集した参加者の背景情報を当日の案内に十分活かすきれなかった点も課題として挙げられる。
- ・ 今回も作品鑑賞を期待する参加者が多く、「立ち寄り地点が多かったため、個々の作品をじっくり見たかった」という意見もみられた。一方で、訪問地点の多さや多角的な内容構成を肯定的に捉える声も多く、今後は両者のバランスを考慮した設計が求められる。
- ・ 多くの参加者が時間どおりに来場し、受付時にも円滑なコミュニケーションを図ることができた。一方で、すべての来場者が同様ではなかったため、今後はよりスムーズな受付体制や運営方法の工夫について検討を進めたい。

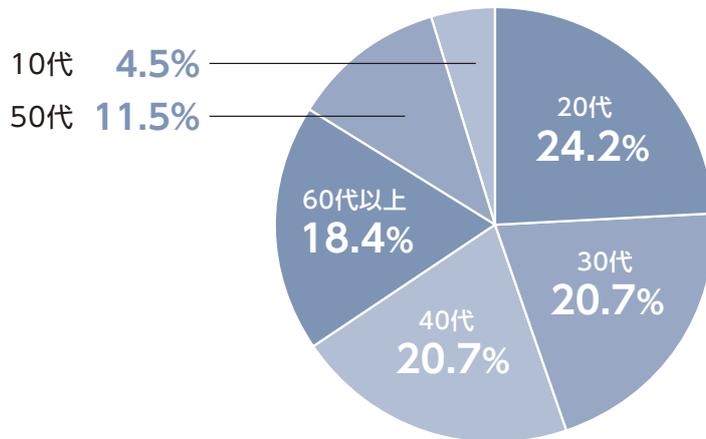
3. アンケート集計結果

回答数 n=44 (参加者合計 46名…回収率:96%)

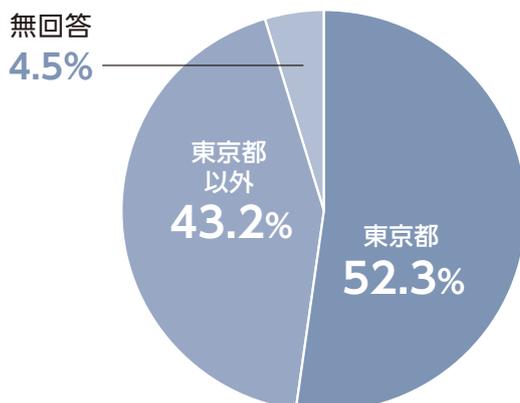
① 性別



② 年齢



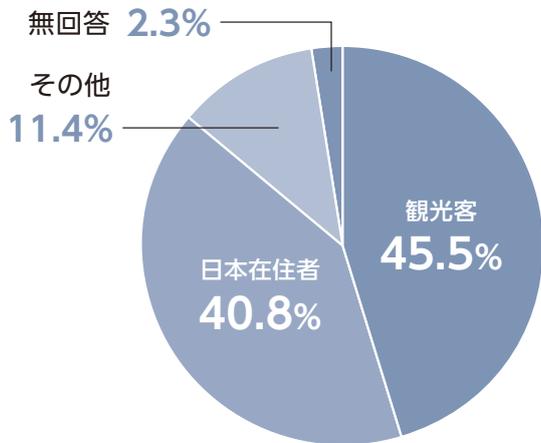
③ 居住地



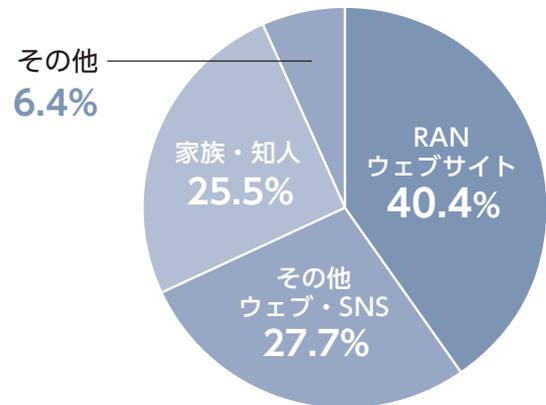
④ 出身地

日本	3	アメリカ	5
中国	10	カナダ	2
韓国	1	メキシコ	1
フランス	5	ブラジル	1
ドイツ	1	アルゼンチン	1
イタリア	1	オーストリア	3
ポルトガル	2	ニュージーランド	3
イスラエル	2	無回答	2
モロッコ	1		

⑤ あなたは、観光客ですか、日本在住者ですか。



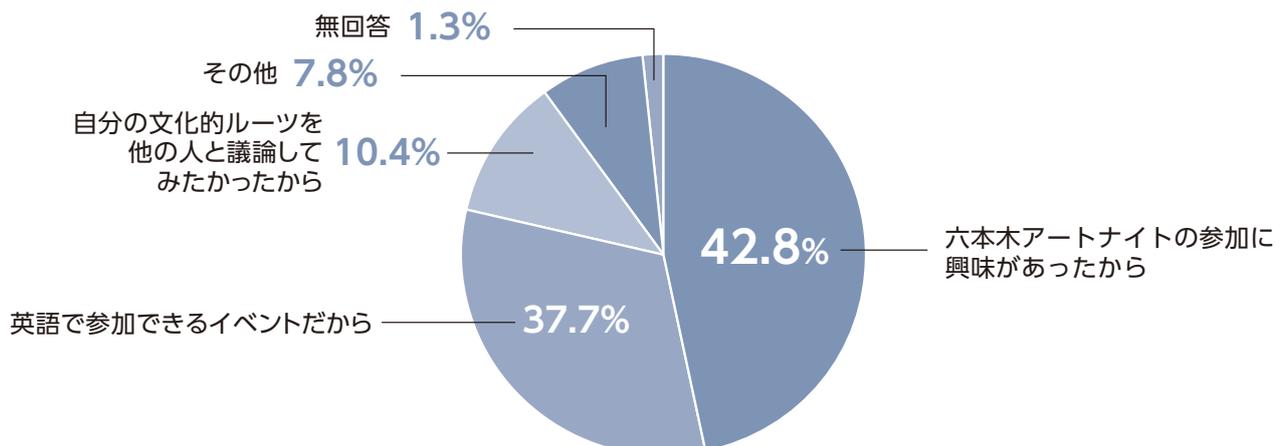
⑥ このツアーをどこで知りましたか？



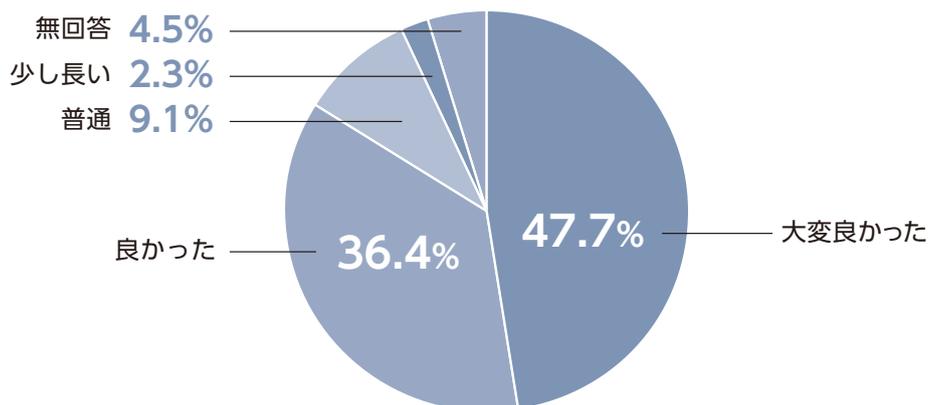
⑦ 六本木アートナイトに参加したことはありますか。



(a) 本企画に参加しようと思った動機は何ですか。(複数回答可)



(b) ツアーの長さはいかがでしたか。



2024年度に引き続き、実際に街中を散策するツアーの時間は約1.5時間(90分)とした。

気に入った点

1. ガイドの専門性・運営体制

- ツアーガイドやスタッフが親切(4件)
- スタッフ全員が知識豊富で親切
- 知識が豊富(2件)
- ガイドのスタイルが良い
- ガイドがいきいきしている
- ツアーガイドがとても良い／ガイドさんは最高だった
- フレンドリーで情報量が多い
- 素晴らしいガイドによる案内で、作品や景色を楽しめた
- チーム全体の対応が良い

2. コンテンツの充実度・構成

- コンテンツが豊富(2件)
- 情報がわかりやすい／情報が良い(2件)
- 明確で辿りやすく、ツアーの長さもちょうどよい
- 組み立てがよく、迷子にならないよう配慮されていた
- 経路がよい
- 快適に参加できた
- ダイナミズムがある
- 全体として非常に満足(2件)

3. アート体験の質・多様性

- アートを見ながら歩ける点が良い(2件)
- アート作品の幅が広い
- 作品そのものが良い(2件)

- 作品についての語りを直接聞くことができた(アリ・バユアジ)
- ジョン(ファシリテーター)のアレンジメントが良かった
- 美術史との組み合わせが興味深い

4. 六本木の歴史・背景理解

- 六本木の歴史についての紹介が良い
- 細かい六本木の歴史を知ることができた(4件)
- 歴史的背景の説明が良い(2件)
- アート作品と六本木の歴史の関連性を理解できた(2件)
- 歩き回りながら六本木を知ることができた

5. 体験としての楽しさ・発見

- 小さい道を探検できた
- 複数のエリアを見ることができた
- 楽しい旅だった

改善点

1. 作品鑑賞時間・ボリューム

- より多くのアート作品を見たかった
- 各作品をもう少し時間をかけて鑑賞したかった
- もう少し長く、より多くのインスタレーションを見たかった
- 各作品間の移動や鑑賞後の切り替え時間として、もう少し余裕を持たせてもよかった(3件)
- もう少しゆっくり歩きたかった
- 内容がつまりすぎ

2. 解説内容・テーマ構成

- 作品のより詳しい解説
- 日本史より、もう少し日本の現代アートについて知りたかった
- 六本木アートナイト自体の歴史と、作品の選定プロセスも知りたい
- 作品を十分見られない場合、再訪可能な場所や時期の案内があるとよい

3. 体験環境・運営面(設備)

- オーディオ機器が聞き取りづらい場面があった
- オーディオ機器は両耳対応など改良の余地がある
- 作品間の移動や説明の間に、もう少し余白があるとよい

4. 交流・付加体験

- コーヒーなどを飲みながら交流できる時間があるとよい
- ウイスキーの試飲をよりゆったり楽しみたかった
- 事業の継続期間や実施頻度を増やしてほしい

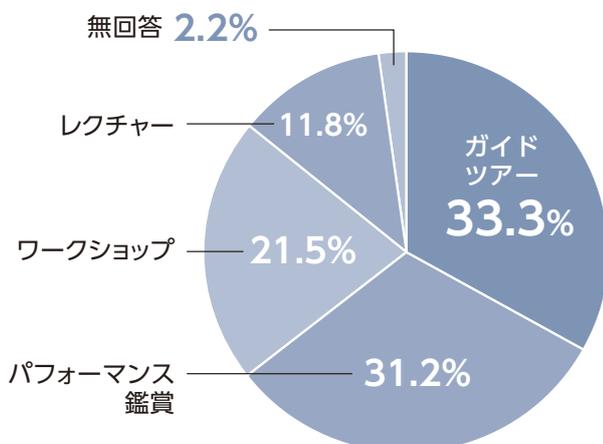
5. 情報提供・多言語対応

- 中国語によるツアーの実施
- アートナイト全体のスケジュールを事前に確認したかった
(※当日ハンドアウトの配布により対応)

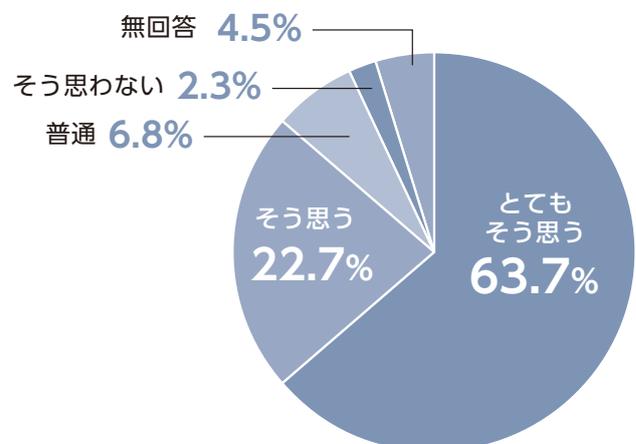
6. 特になし

- 特になし(8件)

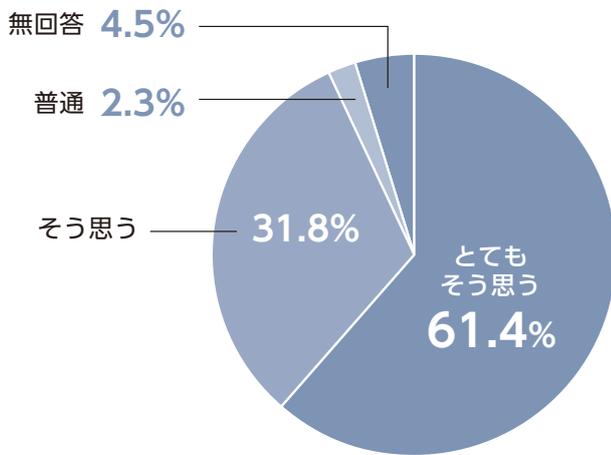
⑧ 英語の企画でどのようなプログラムに参加してみたいですか？(複数回答可)



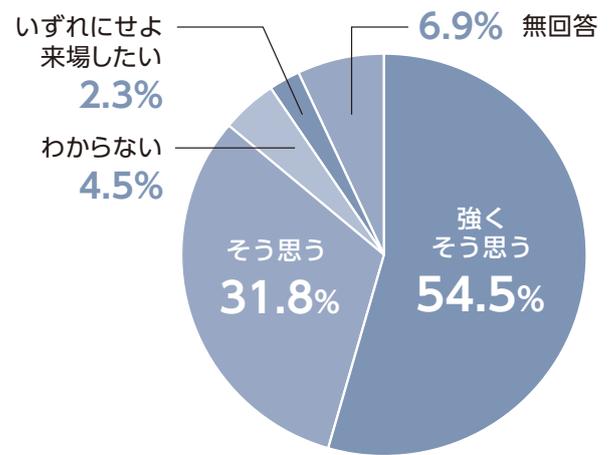
⑨ このプログラムに参加したことで、六本木への興味は深まりましたか？



⑩ このツアーに参加して、
六本木への興味や理解は深まったと
思いますか？



⑪ 多言語の企画があれば、
六本木アートナイトに
再度来場しようと思いますか？



⑫ その他 (自由記述)

1. ガイド・チームへの評価

- ありがとうございます
- とてもよかったです、素晴らしい時間をありがとう
- 素晴らしい一夜だった
- 素晴らしいツアーだった
- 良いプログラムだった
- 素晴らしい取り組み!
- 楽しめた、うまく組んでいた
- 時間があつという間だった。良い思い出をつくってくれてありがとう

2. ガイド・チームへの評価

- ジョン(ファシリテーター)とチームは素晴らしい仕事をしました、感謝
- ツアーガイドが知識豊富で英語が聞き取りやすい
- リーダーとスタッフが素晴らしかった、機会をありがとう
- 素晴らしいチーム

3. ガイド・チームへの評価

- 理解しやすく、今のままで大丈夫
- わかりやすくまとめてくれてありがとう
- もっと長くて良い
- パフォーマンスをもっと楽しみたい

4. 多言語対応・英語対応に関する要望

- 英語のワークショップ(特にパフォーマンス系)があると嬉しい
- 日本語プログラムに英語字幕や英語説明があると嬉しい
- 英語でのイベントスケジュールがあるとよい
- 他言語対応(中国語、フランス語、スペイン語など)(4件)
- 英語の地図が欲しい
- 海外からの来場者向けのオーディオガイドがあるとよい
- 英語の予約機能があるとよい
- 英語の冊子

5. 情報提供・デジタル化に関する要望

- デジタルのスケジュール
- デジタルの作品リスト
- 似たようなプログラムがあれば情報を送ってほしい

6. 実施回数・継続性への期待

- 人気ツアーですぐに予約が埋まってしまった、ツアーを増やしてほしい
- 今後のツアーも楽しみにしている
- 今後も続けてほしい

7. 波及効果・意識変化

- 自身でも、人が少ない時間帯に六本木を探検してみたいと思った
- 六本木をビジネス街だと思っていたが、アートの街として再認識できた
- 他のアートや彫刻にも興味を持った

〈企画協力〉

企画協力：田中・ジョン・直人

東京出身、米国カリフォルニア大学デービス校で国際農業開発学と美術史を学んだ後、都内で大手メーカー勤務を経て、東京藝術大学大学院GAP専攻修了。現在は同大の取手キャンパスを筆頭に、個人史・地域史とマクロな社会史・人類史の接続点へ、リサーチ、発表や展示、アーカイブで迫ってきた。

六本木アートナイト 2025

■開催日時：令和7年9月26日(金)～9月28日(日)

※26日(金)18:30～22:00、27日(土)13:00～22:00、28日(日)13:00～20:00

■開催場所：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

■主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

■助成：文化庁

韓国文化体育観光部、韓国国際文化交流振興院・駐日韓国大使館 韓国文化院

※韓日国交正常化60周年事業

台湾文化部

六本木アートナイト2025 外国語対応企画

外国語ガイドツアー「English Guided Tour: A Sensory Journey through Time」報告書

発行：六本木アートナイト実行委員会

発行年月：2026年3月

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

森ビル株式会社 森美術館内

URL：<https://www.roppongiartnight.com/2025/>